

地域トピックス

～地区センターからの話題をお届けします～

◆家族でふれあいづくり — 遠野町 —

「家族でひなまんじゅう教室」(遠野町地域教育協議会主催)は2月21日、市民センター実習室で行われました。家族のふれあいと、郷土に伝わる食文化の継承を目的に「遠野家族の日」(毎月第3日曜日)に行われた催しには、親子など22人が参加。参加者は、講師の食生活改善推進委員の指導を受けながら生地をこね、竹べらを使いまんじゅうに桃の花やカッパなど、思い思いの飾り付けをして楽しみました。



講師(左)からひなまんじゅうの作り方を教わる参加者

◆楽しみながら体力向上 — 附馬牛町 —

キッズスポーツ教室は11月5日から3月11日までの毎週木曜日、附馬牛地区センターで行われました。体力と運動能力の向上を高め、運動への意欲と習慣を身に付けることを目的に行われた同教室には、附馬牛小の児童19人が参加。児童たちは、柔軟性を高める運動のほか、鬼ごっこや二つのボールを使ったキャッチボールのゲームなど、楽しみながら体を動かし、さわやかな汗を流していました。



柔軟性を高める体操に取り組む児童たち



急な斜面のごみも協力して拾う部員

感謝の気持ちを地域に還元 緑峰高野球部員が清掃活動

遠野緑峰高野球部(部員17人)は3月1日、遠野八幡宮やバイパス付近で清掃活動を行いました。ロードトレーニング中にごみが多いことに気付いた部員たちが自主的に拾ってくるようになり、部員全員で部活動の一環として取り組もうと自ら企画。道路脇の斜面や用水路に捨てられた缶やペットボトルなどのごみを、協力し合いながら拾いました。内田拓也君(2年)は「ランニングに使わせていただいている大切な道路。きれいにして地域に恩返しできればと思います」と話していました。



テンポの良い語りで観衆を引き込む講談師の神田織音さん

講談交え制度の理解深める 成年後見制度セミナー開催

市民のための総合相談研修会「成年後見制度セミナー in 遠野」(遠野市社会福祉協議会など主催)は3月12日、あえりあ遠野で開かれました。民生委員など209人が参加し、講談や講演を通じて認知症や障がい者で判断能力が不十分な人の財産管理を行う「成年後見制度」に理解を深めました。第1部では、講談師の神田織音さんが住宅リフォーム詐欺などの実話を基に、3話の講談を披露。神田さんはテンポの良い語りで観衆を引き込むと、「どの社会も自助・共助・公助が基本。社会全体で考えることが大事」と締めくくりました。



慣れた手つきでごまゆべしに包丁を入れる佐々木さん(左)

郷土料理の味と技術を指導 市内の「食の匠」が情報交換

第4回「遠野地区食の匠連絡会」研修会は3月3日、宮守町達曽部の米田生活改善センターで開かれました。「食の匠」は、郷土食を伝承する人を県が認定する制度で、本市では10人が認定されています。この日は「食の匠」5人を含む11人が参加し、郷土食について情報交換をしました。宮守町在住の佐藤スガ子さん(73)がひなまんじゅうを、佐々木ナカさん(81)がごまゆべしの作り方を指導。参加者は色や模様の付け方などを聞き、楽しみながら作っていました。佐藤さんは「この技術を孫たちにも継承してもらいたい」と話していました。



佐藤さん(左)を見習い、ひなまんじゅうを作る参加者

目指すは未来を守る自衛官 自衛隊入隊予定者の激励会

今春、自衛隊に入隊予定の太田成美さん(釜石高)=上郷町=、古屋敷翔君(遠野緑峰高)=土淵町=、照井裕介君(遠野高情報ビジネス校)=宮守町=の激励会は2月24日、市役所で行われました。市自衛隊協力会など関係者19人が出席。小松喜一会長は「つらい時には、遠野のことを思い出して頑張ってもらいたい」と激励し、記念品の救急セットを手渡しました。3人を代表して航空自衛隊に入隊予定の太田さんは「遠野に誇りを持ち、皆さんから信頼される自衛官になりたいです」と決意を述べました。



激励を受け、決意を新たに3人

新たな特産品の定着に乾杯 遠野山ぶどうワイン初飲み

遠野山ぶどうワイン初飲み会は3月11日、JA生活センターで開かれ、生産者など60人が香り豊かなワインの出来栄を語りました。遠野山ぶどうワインは市内の生産者が育てた山ぶどうを、葛巻町の葛巻高原食品加工が製造。ほどよい甘さが好評で、過去2年とも完売していることから、3年目の今年は前年比3300本増の6000本を製造しました。生産者の金濱誠さん(72)=上郷町=は「昨年よりも甘くなって飲みやすくなりました。年々おいしくなっています」と今年の出来栄にも満足していました。



今年の出来栄に満足し乾杯する参加者